

私たちと民話 ～後世に伝えるべき民話とは～

徳島県立海部高等学校 2年

1. 動機・目的

- ・海陽町と東洋町にどのような民話が語り継がれているのか気になった
- ・私たちが今後生かせることを、未来に伝え繋げるべきだと考えた

2. 仮説

- ① どちらの地方の民話も同じような内容なのではないか
- ② 海・水系の民話が多いのではないか
- ③ 「してほしくない事」を民話にして語り継いでいるのではないか

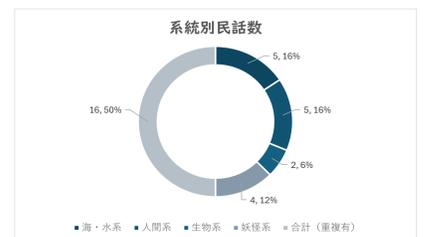
3. 研究手順

- ① インタビュー調査（口語伝承収集）
→対象：海陽町・東洋町 在住者
年齢：40代～70代
質問項目：①「地元で語り継がれる昔話について教えてください」
②「なぜ語り継がれていると思いますか？」
- ② 文献調査（文語伝承収集）
→対象：図書館に所蔵されている地誌
場所：①海陽町立海南図書館
②海部高校図書館
- ③ 比較調査
⇒調査①②で収集した民話を比較し、共通点と相違点を探る。
→比較項目：①ストーリー構成
②登場人？物
③結末

4. 調査結果

○民話収集結果

- ・東洋町に伝わる民話・・・12個
ex) 「牛ヶ石と馬ヶ石」「タヌキ伝説」「海坊主伝説」
- ・海陽町に伝わる民話・・・6個
ex) 「牛ヶ石と馬ヶ石」「鯖大師」「竹ヶ島の神輿の担ぎ手」



○仮説検証結果

- 仮説①『どちらの地方の民話も同じような内容なのではないか』
⇒別の地域であるが、類似した民話の存在が確認された。
ex) 「牛ヶ石と馬ヶ石」「河童伝説」
- 仮説②『海・水系の民話が多いのではないか』
⇒他の種類の民話と比較して多数の民話を確認された。
ex) 「海坊主伝説」「河童伝説」
- 仮説③『「してほしくないこと」を民話にして語り継いでいるのではないか』
⇒タブーに関わる多数の民話を確認された。
ex) 「竹ヶ島の神輿の担ぎ手」「海坊主伝説」

5. 考察

タブーに関する民話、海・水系の民話に類似性のあるものが確認されたことから、水の恐怖を伝えようとしているのではないか。
海に近い東洋町や海陽町のような地域では、自然と人間の関係が文化の中心であるから、民話を通じて自然への畏怖や人間の行動規範を次世代に伝えることが、地域のアイデンティティを守ることにもつながるだろう。

6. 参考文献

海陽町史編さん委員会編、『海陽町史下巻』
徳島県海部郡海陽町、p. 355 - 357